



日の目を見た(?)ロシア語学習歴

会員 加部 歩人 (71 期)

隣国なのにどこか心理的には遠い国、ロシア連邦。今、この国が、かつてない大きな注目を集めている。無論、悪い意味でだ。そんな中、不人気で正直あまり役に立つとは思っていなかったロシア語の学習歴が、ほんの少し、日の目を見ることがあった。

法学部でロシア語を学んだ4年間

変わり者の私はどこか得体の知れないロシアにむしろ興味を持ち、第2外国語にロシア語を選択した。ラテン文字と似ているようで全然違うキリル文字と、非常に美しい発音も魅力的だった。

慶大法学部の外国語科目では、2年間の通常コースに加えて、4年間みっちり学べる「インテンシブコース」が設置されている。私はロシア語インテンシブコースで、ごく少数の同級生と共に、実に多彩な授業と、素晴らしい講師陣に恵まれた。

2012年には、1か月という短期間ながらモスクワでの語学研修にも参加した。寮で生活し、現地の人々の暮らしを少しだが垣間見ることができた。

忘却と突然の出番

その後ロースクールに進み、ロシア語もロシアのこともすっかり忘れて弁護士になった。業務上ロシア語に触れる場面など全く無いし、知識が生きそうな気配もない。法学部でロシア語を学んだことは、楽しい思い出くらいに思っていた。重たい「露和辞典」は、本棚の奥で埃を被っていた。

ところが、今年の春、思いがけずその埃を払うことになった。2月のロシア軍によるウクライナ侵攻開始を受けて、何かできることはないかと思っていた。所属事務所の先輩から「ロシア語やってたんだよね? 反戦メッセージ動画でも作ったら?」と背中を押される。いやいや無理ですよ、とその場ではお茶を濁したものの、後で思い直し、辞書と文法書をにらみつつ、反戦活動をしているロシア人に対する拙い連帯メッセージ案を作成。



厚かましくも深夜2時に恩師にメールで送りつけて、添削をお願いした。すると、恩師は同日午前中には完璧な原稿にして戻して下さった…

在日反戦ロシア人とのつながり

この原稿を読み上げた動画をYouTubeで公開したところ(写真)、3月18日の神奈川新聞社会面で大きく取り上げられる等の反響があったほか、日本でウクライナ侵攻に抗議する活動をしているロシア人から動画を観たと連絡が入った。聞けば、仲間が抗議活動がきっかけで会社とトラブルになり、離職せざるを得なくなったという。相談に乗り、在留資格関係の支援を行った。

そのロシア人らは、昨年1月にロシアの反体制派活動家であるアレクセイ・ナワリヌイ弁護士が拘束されたことに抗議する街宣活動で知り合った者同士という。その後も連絡を取りあい、ソ連崩壊後のロシアの政治やロシア社会のありようについて教わっている。また、シベリアや極東地域から、自由を求めて日本へ来ているロシア人も相当数いるという。今回のウクライナ侵攻の陰には、ロシア国内の自由と人権抑圧の問題が深く横たわっていると感じた。また、今回のロシアの行動をきっかけに9条改憲が声高に叫ばれていることを考えても、これは日本の弁護士としても無関心ではいられないテーマに思えた。

ロシア語が繋いでくれた貴重な縁である。より深めて取り組んでいきたい。